

**第490回 6月22日開催  
出席委員（50音順・敬称略）**

荒巻 裕            大村 英昭  
木下 明美        黒田 勇  
櫻井 美幸        森 輝彦  
倉光 弘己（書面参加）

**ラジオ・ドキュメンタリー番組「語り継ぐ歌声」  
5月28日（金）午前3時～4時放送**

**委員の主な意見**

\* 部落問題については、今でもマスメディア全体としてはまだまだタブー視しているのかなという印象を持っているが、その中で少なくとも正面から取り上げようとしていることについては、意義深いと思う。

いわれなき差別の体験が彼女たち自身の言葉で綴られ、加えて結晶とも言うべき歌がそこかしこで流れ、非常に胸を打たれた。構成のうまさも感じた。

\* 意義の高いドキュメンタリーだが、部落の歌であると世に知れたとたん放送メディアから姿を消してしまう、そここのころの信憑性について、また最初に大ヒットしたときから今日までの推移について、時の当事者たちへのヒアリングなり、検討があったほうがよかったのではないかと。メディア側の自主規制なら、なぜ自主規制する必要があったのか。

\* 逆説的な言い方になるが、差別は放送にとっては資源だ。関西はものすごい歴史を抱えているわけで、部落差別やいろんな差別があるということをもうちょっと突き放してみて、考えて、ドキュメンタリーやドラマができる。放送事業、放送文化にとって貴重な資源だと思う。

\* 初めから人権の枠ということで作ろうとしたように感じられ、このドキュメンタリーの構成上少しネックになっていると思う。

女の人の手仕事、歌と、人権が、あまりにも密にはっきり解説されすぎたがゆえに、ちょっと構えてしまっている制作側のスタンスがあるように感じた。

\* この番組は非常に優れているが、一方で非常に重苦しい。この重苦しさは何とかならないものか。扱っている題材は深刻な問題だが、番組名は「語り継ぐ歌声」となっており、このテーマからいくと、もっと音楽が前に出てきてもいい。主題の曲である「竹田の子守歌」は単音階で単純なメロディーの曲なのだから、工夫をして、もっとめりはりのある扱い方が欲しかった。

\*歌の力によって、部落差別を迫体験できる。部落差別は最も性質の悪い差別であり、おばあちゃんたちの証言を、ちゃんと聞くことで繰り返し、何度も確認すべきことである。

難しいテーマを説教臭くせず、悲壮感も漂わせず、さらりとまとめたのは良かった。繰り返し取り上げられるべきテーマである。

### **「オーサカキング」の報告**

MBSの今年の3大テーマの一つで、メインテーマに「もっと大阪を」を掲げ、地元の文化や経済と連動し大阪の活性化のため、さまざまイベントを展開、また特番を組むことなどを、石橋専務が報告した。